

北 どらくろあ

第103号 2024年10月1日（毎月1日発行）



下久野の鉄橋を渡る「あめつち」

木次線ストロール⑪ 下久野駅

「『砂の器』のロケ地で

『あめつち』に出会う」

9月16日の午前7時半過ぎ、車で庄原の自宅を出発した。三日月ぶりの木次線の取材、そして久しぶりの遠出である。今日は第3月曜日、敬老の日の祝日。沿道の田んぼは7割方、稲刈りを終えているだろうか。いよいよ新米の季節である。蕎麦畑の白い花が満開だった。景色は秋めいているが、

9時35分発の安道行きに乗車。オレンジの車両だった。先客は4名程。祝日なので、観光客が多いのではないかと予測していたのだが、微妙である。列車はホームを出ると、しばらくして長いトンネルに入る。全長2241メートルで、トンネルの多い木次線でも最長！

この下久野トンネルのことが『砂の器』と木次線（村田英二「ハーベスト出版」）に書かれている。『工事』は昼夜を問わず三交代で行われ、のべ一九万人以上の労力が投入された。地元の住民も久野労働団を組織してつるはしやスコップを振るった。だが、地盤は悪く、工事は相次ぐ落石や湧き水との戦いとなった。今のようにヘルメットもなく、けが人が続出。そのたびに坑内は救出に大騒ぎとなった。

事故による死者6人、負傷者は465人、完成までに2年10カ月を要した。木次線最大の難工事であったという。

長いトンネルを出たあとも、山間の緑のトンネルが続く。7分程の乗車で、下久野駅に到着した。珍しく、わたしの他にも下車した男性がいた。この駅が目的地らしく、待合室で一緒になったので声をかけると、神奈川県在住の鉄道ファンで、「あめつち」の撮影が目的だという。

「奥出雲おろち号」の後継である観光列車「あめつち」。山陰本線の米子駅から木次線に乗り入れて、出雲横田まで走っている。しかし、鳥取駅―出雲市駅間の運行がメインで、木次線走るのは月に4日程。今日がその運行日なのである。快速列車なので、下久野駅には停車しない。駅を通過する「あめつち」が目的なのか、近くに撮影スポットがあるのだろうか。

出雲神話にちなんだ駅の愛称は「動動（あよあよ）」。解説板によると、昔、農民が田を耕している

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10

誌面デザイン: ROUTE183
協賛：九日市愛好会